

# 防犯 最新線

## 第13話

### 南ヶ丘登下校児童見守り隊

# 子どもたちが「元気の源」



子どもたちを見守り続けるメンバーら＝栄一丁目で

南ヶ丘から南小に通う児童たちの通学路には、帰りにきつい上り階段がある。県道日進駅南交差点西で最初の33段を上ると、公園沿いに60段が続く。ようやく頂上に着いたかと思うと、最後に歩道橋が待っている。「子どもたちの足は大変。先日両手に荷物を持った子が下りで転んでけがをした。転んでも受け身を取れるよう荷物は片手だけにして」と代表の山路敏雄さん(84)は呼び掛ける。

メンバーらは階段の上下や車のすれ違いが多い道路、曲がり角など要所に立つ。「ただいま」「お帰り。気をつけてね」。そのやり取りは、孫とおじいさんの関係そのものだ。

見守り隊は2007年11月に発足した。その当時、地区の住民座談会でPTA役員から「登下校の見守りをやってほしい」という声が上がリ、地域を知る区長経験者と賛同者が一役買った。

朝と昼、登下校のそれぞれ30分程度が見守り活動の時間。メンバーは高齢化とともに一部入れ替わったが、活動10年目の今も18人が登録している。1年のうち、いきいきクラブの旅行がある3日間を除いて、毎日誰かが必ず立つ。これには驚きた。

メンバーらは「得るものは大きい」と口をそろえる。三堀(はじ)俣さん(82)は「子どもたちから元気を

もらえるし、足腰も鍛えられる」と実感し、中村行男さん(73)は「トイレに行きたい子がいれば近くの店に連れて行く。頼りにされると気分がいい」とうれしそうに話す。山路さんも「(こ)だけの話」4、5人の子どもからバレンタインチョコをいただく」と明かす。

メンバーらは「元気が一番」と日々仲間の健康を気遣う。「ピーポー、ピーポー」という救急車のサイレン音が聞こえると心配になる。私たちは「見守られ隊」なので」と冗談交じりに話す。南ヶ丘では夏休みに親子、高齢者の三世代がグラウンドゴルフを楽しむ。そんな絶妙な距離感が地域を育んでいる。「子どもたちが大人になってもちゃんとあいさつができる。いつまでもそういう間柄でいたい」。(広)



ほのぼのとした下校風景



## 消防操法大会 折戸が2年連続V

第23回日進市消防操法大会が5月20日、総合運動公園で開かれ、折戸が見事2年連続11度目の優勝に輝きました＝写真。市代表として8月5日に碧南市で開催される第62回愛知県消防操法大会に出場します。2番員の中村浩之選手は

昨年、県大会直前の練習中にけがを負い出場を断念。悔しい経験をばねに「日進市ここにありという存在感を示したい」とリベンジを誓いました。(中)

そのほかの結果 準優勝＝岩崎、入賞＝北新・米野木・梅森

